

4. 火災の実態

1 火災の概要

令和2年中の火災は、出火件数1,654件、損害額5,124,695千円、死者数60人、建物焼損床面積50,910㎡、建物焼損表面積4,908㎡、林野焼損面積682a、焼損棟数1,234棟、り災世帯数838世帯、り災人員1,801人となった。前年と比較した火災の状況は次のとおりである。

なお、令和2年中の火災の発生を一日当たりで見ると、出火件数約4.5件、損害額約14,040千円、死者数約0.2人、建物焼損床面積約139.5㎡、建物焼損表面積約13.4㎡、林野焼損面積約1.9a、焼損棟数約3.9棟、り災世帯数約2.3世帯、り災人員約4.9人である。

区 分	令和2年 ①	令和元年 ②	対前年増減数 ③ = ① - ②	増減率 $\frac{③}{②} \times 100$ (%)
出火件数	1,654	1,863	-209	-11.2
建物火災	860	955	-95	-9.9
林野火災	77	77	0	0
車両火災	140	142	-2	-1.4
船舶火災	3	2	1	50.0
航空機火災	0	0	-	-
その他火災	574	687	-113	-16.4
焼損棟数	1,234	1,431	-197	-13.8
り災世帯数	838	902	-64	-7.1
り災人員 (人)	1,801	1,928	-127	-6.6
焼損面積				
建物床面積 (㎡)	50,910	47,669	3,241	6.8
建物表面積 (㎡)	4,908	5,216	-308	-5.9
林野 (a)	682	1,377	-695	-50.5
損害額 (千円)	5,124,695	3,855,441	1,269,254	32.9
建物火災	4,898,775	3,539,927	1,358,848	38.4
林野火災	2,495	5,975	-3480	-58.2
車両火災	95,630	89,577	6,053	6.8
船舶火災	6,413	1,032	5,381	521.4
航空機火災	0	0	-	-
その他火災	116,809	218,849	-102,040	-46.6
爆発	4,573	81	4,492	5,545.7
死者 (人)	60	54	6	11.1
負傷者 (人)	253	254	-1	-0.4

(注) ア 建物火災とは、建物又はその収容物が焼損した火災をいう。

イ 林野火災とは、森林、原野又は牧野が焼損した火災をいう。

ウ 車両火災とは、原動機によって運行することができる車両及び被けん引車又はこれらの積載物が焼損した火災をいう。

- エ 船舶火災とは、船舶又はその積載物が焼損した火災をいう。
- オ 航空機火災とは、航空機又はその積載物が焼損した火災をいう。
- カ その他の火災とは、アからオまでに掲げる火災以外の火災をいう。
- キ 爆発とは、人の意図に反して発生し又は拡大した爆発現象をいう。

2 出火件数

(1) 総出火件数は、1,654件で前年と比べて209件減少している。これを火災種別でみると、次のとおりである。

種別 年	総出火件数	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他
令和2年	1,654件 (100.0%)	860件 (52.0%)	77件 (4.7%)	140件 (8.4%)	3件 (0.2%)	0件 (0.0%)	574件 (34.7%)
令和元年	1,863件 (100.0%)	955件 (51.3%)	77件 (4.1%)	142件 (7.6%)	2件 (0.1%)	0件 (0.0%)	687件 (36.9%)

(2) 月別出火件数

月別出火件数は、次のとおりである。火災は、12月から3月にかけて多く発生する傾向がある。

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
出火件数	147	243	170	141	130	104	79	155	91	95	140	159	1,654

(3) 出火率

出火率（人口1万人当たりの出火件数）は、県平均 約2.62件となっている。

3 損害額

火災による損害額は5,124,695千円で、前年比1,269,254千円（32.9%）増加した。また、1日当たりでは約14,040千円（前年 約10,563千円）、1件当たりでは約3,098千円（前年 約2,069千円）となっている。

4 出火原因

出火原因別火災発生件数は、次のとおりである。例年と比べ、全体的に件数が減少傾向となっている。

総出火件数	放火・放火の疑い	たばこ	こんろ	たき火	火遊び	その他
1,654件 (100.0%)	224件 (13.5%)	169件 (10.2%)	127件 (7.7%)	126件 (7.6%)	16件 (1.0%)	992件 (60.0)

※その他には、上記以外の出火原因21区分及び不明・調査中を含む

5 死傷者の実態

(1) 死傷者数

火災による死者は60人、負傷者は253人で、前年に比べて死者は6人増加（前年比11.1%増）し、負傷者は1人減少（前年比0.4%減）した。

(2) 火災種別にみる死傷者数

火災種別ごとの死傷者発生状況は、次のとおりである。

火災種別	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	合計
死者数	48 (80.0%)	0 (0.0%)	2 (3.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	10 (16.7%)	60 (100.0%)
負傷者数	215 (85.0%)	2 (0.8%)	6 (2.4%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	29 (11.4%)	253 (100.0%)

(3) 月別の死傷者数

月別死傷者数は、次のとおりである。死傷者は、11月から4月にかけて多く発生する傾向がある。

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
死者数	10	5	6	3	2	3	2	6	4	3	7	9	60
負傷者数	31	21	30	24	15	13	7	22	16	20	14	40	253

(4) 年齢層別の死者数

年齢層別死者数は次のとおりであり、61歳以上が全体の約7割を占めている。

区分	0歳～ 20歳	21歳～ 30歳	31歳～ 40歳	41歳～ 50歳	51歳～ 60歳	61歳～ 70歳	71歳 以上	不明	合計
死者数	1 1.7%	1 1.7%	2 3.3%	8 13.3%	7 11.7%	10 16.7%	29 48.3%	2 3.3%	60 100.0%

(5) 死因別死者数

死因別死者数は次のとおりであり、死者は、一酸化炭素中毒・窒息で多く死亡している。

区分	一酸化炭素 中毒・窒息	火傷	打撲・骨折等	自殺	その他・不明	合計
死者数	22 36.7%	11 18.3%	0 0.0%	11 18.3%	16 26.7%	60 100.0%